

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田7条6丁目3-15		
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170200778-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム・ベルⅡは、理念に掲げている様に、心と心の触れ合いを大切に、入居者家族、地域のつながりを深め、常により良いサービスを提供できる様に高い意識を持って、各職員が職務に就いています。
隣接している「グループホーム・ベル」とお互いに交流をしながら、体制を整え、運営やケアに取り組んでいます。
家庭的な温かさを大切に、管理栄養士による献立で、旬の食材の使用はもとより、行事食、個別食の対応を可能にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム・ベルⅡ」は、周辺に神社や小学校、保育園がある静かな住宅地に建っている1ユニットの事業所である。建物の2階が住居で、隣接している同法人グループホームとの協力体制で安定した暮らしを提供している。地域との関係では町内会役員の協力を得て避難訓練を実施している。運営推進会議には町内会や行政の担当者、知見者、また家族3～5名と参加率も高い。会議の中で身体拘束廃止委員会を開き、報告の中で意見交換しケアに活かしている。開設18年が経過する中で管理者と職員は、理念に沿って地域住民と日々交流している。地域の神社祭りには大勢の子供神輿の行列を見学したり、小学生、保育園児とは毎年交流し、乳幼児の保育所分園が事業所の近隣に建つなど子供との関わりが広がっている。健康の中心は食生活という代表の掲げる運営方針を職員間で共有し、食の楽しみが健康維持につながる取り組みを日々実践している。管理栄養士の献立に新鮮な食材を選び、栄養バランスのある手づくりの美味しい食事を提供している。管理者や職員の勤務年数が長く、常に家族と話し合いながら家族の協力も得て個別ケアを重視している。利用者が馴染みの環境で安定した暮らしができるように協力医と看護職員の下で看取りまでを支える質の高いサービスを提供し、家庭的で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを含む理念を作成している。玄関やホールに掲示しており、毎週月曜日の申し送り後には、理念を唱和して日々のケアに努めている。	住民との触れあいを大切にする内容を入れた事業所理念を共有し、実践につなげている。行事などの機会に利用者は住民と交流し、散歩や買い物の際に住民と自然に触れ合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内の美化運動に参加し、歩道に積極的に花を植えている。散歩時には地域の皆様と挨拶を交わしたり、保育園児、小学生、高校との交流がある。	法人感謝祭に町内会役員や住民の参加を得て交流している。事業所の近隣に保育所分園があり、散歩中に建物の庭で遊ぶ乳幼児を眺めて楽しんでいる。小学生の体験学習や高校生の実習を受け入れて触れ合う機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、ホーム見学を可能としている。運営推進委員会では、地域の方に、認知症ケアの話しをしたり、看護師が講師となり研修会も行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、利用者の活動報告、職員の勉強会報告とその内容書類を配布している。身体拘束廃止委員も参加し、推進会議参加者より意見、要望を受けサービス向上に活かし、家族に郵送している。	運営推進会議では、外部評価、防災、看護職員による医療的な処置や栄養などのミニ勉強会も行い意見を交換している。また会議で身体拘束廃止委員会を開き、事例や取り組みを報告する中で意見も得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の管理者連絡会で情報交換を行なっている。生活保護の利用者が多い為、保護課担当者とは密に相談し、助言をいただいている。	管理者は保護課の担当者に連絡や報告を行い、事例の相談をしたり、おむつ代の申請などで代行している。地域包括支援センター職員から、キッズサポート養成講座や徘徊高齢者模擬訓練などの情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束廃止や高齢者権利擁護の内部研修を行い、廃止委員会が中心となり、一か月に一度のペースで確認と検討を行っている。拘束のないケアと環境整備をし、玄関は日中施錠をせず、外出希望の場合は、職員が同行し、安全に過ごせるケアに取り組んでいる。	2か月ごとに運営推進会議で身体拘束廃止委員会を行うほか、事業所内で毎月委員会を開き、あらゆる拘束を想定し対応している。事例ごとに拘束のない安全な方法を話し合い、詳細な記録で経過を共有している。研修では身体拘束禁止行為を確認し、言葉遣いなども学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、職員で周知徹底している。フローア会議で虐待行為に繋がるケアをしていないか話し合い、防止の徹底に努めている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修会に自ら職員が参加し、制度を利用しうる入居者がいる場合は、地域包括支援センター等に相談できる様繋がりを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は十分に説明を行い、不安や疑問点を取り除き、納得していただいた時点で手続きをしている。重度化によるリスクや看取りケアについても初回の契約時に十分に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見しやすい雰囲気づくりに努め、ミーティングなどで検討し対応している。運営推進会議で家族の意見や要望をいただき、運営に反映できるよう努めている。	家族の来訪時に状態を説明し、意見や提案を受けて安全なケアにつなげている。管理者と職員は常に家族と話し合い、家族の協力も得ながらケアに取り組んでいる。職員が交代で毎月個人ごとにお便りを送り、暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションを大切にしている、職員が自主的に働ける環境を整え、意見交換ができる体制にある。	申し送り時や会議では、常に個別ケアで意見を交換している。業務の改善で提案がある時は試しながら決めている。管理者は業務にも入り、その中で個別に意見や研修の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況やスキルを把握し、それを基に個人評価している。職員が向上心を持って働けるように、経営方針に基づいた指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりのスキルを把握しており、個々の合った研修参加を積極的に促している。また、働きながら、資格取得できる機会も与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市北区グループホーム管理者職員研修会に積極的に参加し、同業者と交流している。同敷地内のグループホーム・ベルの職員とは日々、交流できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族とのオリエンテーションを実施しながら聴き取り、一週間を目途に職員全員で観察を強化し、困っている事、不安な事を共有し、課題を上げ、安心した生活に繋げる支援を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることを、各職員は要望に耳を傾け一緒に考え、少しでも良い方向に進める関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず「その時」に必要な支援を、スタッフ一同で見極め、その後常にアセスメントをしながら、次々と起こる変化に対応している。緊急時は、その日の勤務者全員の意見を集約し対応している。困難事例の際は、施設長にも対応判断に対する意見を求める時がある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事やできない事を把握した上で、日々の生活が家族に近い関係になるよう努力している。一緒に感激したり感動できる時間を多く提供できるよう、常に寄り添っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪しやすい雰囲気があるようで 家族の面会が多く、家族と職員とで本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力し、馴染みの人に来ていただいたり、馴染みの場所にお連れしたりしている。できない方には電話や手紙の代筆をし、関係が途切れない様務めている。	昔からの友人が来訪している。家族の支援で友人に会いに行くこともある。家族とドライブで花見に出かけたり、お墓参り、孫の結婚式、美容室など、それぞれに外出している。定期的に2か所の子供の自宅を交互に遊びに行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を職員一同把握し、職員が調整役をしていると、利用者同士、冗談を言ったり、助け合ったりと自然と支え合えるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、Kp夫妻で尋ねてくれたり、手紙、電話を頂き、家族から親戚の相談をされ他のサービスに繋げた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ふとした発言や会話の中から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。カンファレンスでは本人本位の考えで議論している。	会話などから意向を把握して介護計画に反映させている。今後は入居時のセンター方式の（B-3）シートの活用で変化なども追記し、現在の思いを記録で共有できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、生活歴を記入していただいたり、入居者同士の会話の中から、把握をするようにし、職員間で情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に寄り添う事で、その日の心身の変化を感じ、見逃さない努力をしている。その日の利用者の過ごし方が良好になる様、職員同士で確認し合い、日々常に検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを汲み取り、担当者が中心となり、モニタリングを行い、職員（看護師を含む）で意見交換を行ない、カンファレンスで確認、評価をして、介護計画を作成している。	担当職員のモニタリング表をもとに、カンファレンスで評価を行い、本人、家族の意向を取り入れて3か月ごとに介護計画を作成している。入居時や状態変化時には詳細に記録し、安定後は1週間ごとの用紙に支援内容に沿って記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、利用者の希望や願いを聞き漏らさない様にし、個人記録に記入している。その利用者の思いを汲み取る努力をし、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊等、家族と協力しながらスムーズに行える様支援している。定期的に外出している利用者が体調不良で出掛けられない時は、同行予定の方にホームで過ごしていただき、利用者の楽しみを減らさないよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児や小学生との交流もあり、高齢者としての関わりを、一人ひとりが楽しめる様、お手伝いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時には、かかりつけ医の希望を確認するが、ほぼ入居と同時に協力医の訪問診療を受けている。他受診時には協力医の紹介で受診できる。その際、看護師が同行する事もある。	協力医の訪問診療は月1回になっているが、隣接しているホームの往診日に相談ができる。専門的な病院を受診する際には必要に応じて家族に健康情報を渡している。看護師記録のほか、動向記録で往診、通院を個人ごとに記録している。	

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況や気づきは、常勤看護師に常に伝える事ができる。緊急時でも24時間連絡を受け、医師との連携をとる。適切な看護や受診ができる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を入院時から行い、退院後の生活がスムーズにできる様、連携をとっている。入院中は、孤独感や焦燥感を持たない様に、職員が個々に面会に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化対応と看取り方針を説明し同意を得ている。状況の変化時には医師の判断の下「終末期のあり方」を説明し「看取り介護についての同意書」を交わし、看取りを行っている。今後の看取り支援に繋がる様、看取り後の振り返りを行っている。	利用開始時に重度化対応指針や看取り指針を説明している。また終末期のあり方に詳細な内容を明記し確認書も得ている。状態の変化時には関係者で方針を話し合い、家庭的な雰囲気の中で可能な限り対応し看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えてマニュアルを作成して周知徹底している。急変時に備えて必要な物品を用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災管理責任者を中心に年2回の避難訓練を行っている。自動火災通報装置に連絡先として、地域の方にも登録させていただき協力体制ができています。	消防署立ち会いで夜間想定避難訓練に町内会役員の参加を得ている。地震発生後の火災で自主訓練も行っている。地震や水害時のマニュアルを見直し備蓄品を整備している。今後は職員の救急救命訓練の受講を計画的に進める予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重する接遇の内部研修を行い、利用者に合わせた対応や言葉掛けを学び、馴れ合いや不快感を生じない様に努めている。	職員は接遇研修を受講しており、不適切な言葉や指示、嫌味や言葉による拘束が行われていない事を確認し、利用者の尊厳を重視して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定できる様に、わかりやすい言葉で関わり、納得でき自分らしい生活ができる様に見守り、寄り添い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個別性を大切に、利用者が好きな事、したい事ができる様に工夫したり、その人だけの環境や空間を提供する努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室では、ご自分の好みのヘアースタイルに切ってもらったり、イベントや外出時は化粧やネイルを施す支援もしている。家族の協力もあり、季節に合った服装で過ごせる様心がけている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や食器拭きや片づけ等、一人ひとりの力量や性格を把握し、お手伝いしてもらう事で、食事をする事が楽しく、満足できる時間になっている。	管理栄養士が献立を考え、代表者が買い物を行っている。高齢者に不足しがちな栄養を補い、新鮮な旬の食材を使って料理の彩りもよい。誕生日は希望を確認し食べたいものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取熱量は個々の状態に合わせ提供している。1日一汁三菜30品目摂取できるよう、管理栄養士による献立で、彩りよく、旬の食材や、一人ひとりの嚥下状況に応じての形状で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている。スポンジで舌苔や残渣物、痰を取り除くケア支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らい誘導し、排泄を促している。立位保持が不安定な場合は二人で支援している。	温度版に綴じている日常記録に水分と排泄を記入している。尿意が感じられなくても時間や仕草を見て誘導し、便座に座って排泄ができるよう支援をしている。おやつに寒天ゼリーを利用し排便がスムーズになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後の牛乳、毎夕食後のヨーグルト、毎食時、生の果物を提供している。海藻、繊維質の多い食材を多く提供できる様に工夫している。体操や散歩、歩行運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、その日の体調に合わせて、入浴やシャワー浴を提供している。歌を唄ったり、懐かしい話をしたりと癒しの時間となっている。重度化した利用者には、二人介助で支援している。	月曜から金曜の午前と午後、毎入るごとに湯を入れ替えている。座位が保てない場合はシャワー浴対応になるが、温かな浴室で職員と思い出話をしながら安心した入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、体調によって自由に休息できる様に支援している。安心して気持ちよく眠れる様、気温に合わせた寝具の調整も行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書は個人ファイルに保管しており、職員は、一人ひとりの薬の目的、副作用等を理解し服薬支援を行なっている。変更があった場合は看護師より指示を受け、申し送り再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、掃除などの家事を中心にできる事を活かしている。また、ホットプレートを使用した調理等、多くの利用者が参加できる場も設けている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺や近くの江南神社まで、天気の良い日には散歩に出掛けている。車椅子使用の方も交代で出掛け気分転換を図っている。	車椅子でも江南神社や保育園まで散歩に出かけている。冬期は事業所内を歩いて運動不足による身体機能低下を防いでいる。家族の協力で孫の結婚式に参列したり、娘や息子の家に泊まったり、花見や墓参、買い物、外食をして戻る方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望にてホームで預かっている事が多いが、外出の際は、本人が希望する物をご自分で支払い、お金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるようにしている。手紙は代筆支援も行っている。利用者から御家族への手紙を、ベル通信に同封し郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、大きな窓があり、四季折々の景色や、1日の陽の動きを感じることが自然とできる空間となっている。高齢者にとって最適な室温や湿度管理を行い、刺激になる様に音や光がないように配慮している。	季節の飾りや花、観葉植物を置いて家庭的な居間では、エアコンや加湿器を利用し快適に過ごしている。利用者が集いゲームやレクリエーションを行い、歌のCDに合わせて一緒に歌うなど職員と一緒に居心地よく過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの一角にテレビ、ソファを設置している。気の合う利用者同士で食事を摂ったり過ごせる様に席も配慮している。ホールの端には一人で過ごしたり、横になれるソファも設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や孫の写真を飾ったり、なじみの家具や装飾品を置いて、自分の部屋であると認識できる様にしている。	利用者ごと好みの室温になるよう温度計を確認しながら職員がパネルヒーターの強弱を調整している。部屋には利用者が安心して暮らせるよう、好みの物品を置いて居心地よい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっている。トイレや浴室ホールには手摺りを設置している。動線には障がい物を置かない様に徹底している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム・ベルⅡ

作成日：令和 1年 12月 22日

市町村受理日：令和 1年 12月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	入居時の思いや考えをセンター方式(B-3)シートを記載して頂いている。都度、再確認し、思いの変化を検討しケアプランに反映するツールや、記録する事によって情報の共有ができるのではないか。	入居者の思いの変化を知りながら、現在の最善の支援方法を、職員全員で検討し実施できる。	入居時のセンター方式(B-3)シートを活用し、変化などを追記し、現在の思いを記録し、記録で共有し支援する。	6ヵ月
2	35	救急救命訓練の受講者が少ない。	全職員が、救急救命の訓練を受講できる。	職員の救急救命訓練の受講を計画的に進め、随時受講し、緊急時には行動ができる様に修得する。	1年
3	36	「接遇」に関して、内部研修は行えているが、事業所としてのマニュアルがない。	接遇マニュアルを作成し、利用者の尊厳を重視し接する事ができる。	事業所としての「接遇」に関してのマニュアルを作成し、内部研修を行う。不適切な言葉や態度で接していないことを、全職員で常に確認する。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。